



営農NEWS



ハウレンソウ栽培における主な病害虫の防除

ハウレンソウ栽培では、時としてべと病やアブラムシ類、ハウレンソウケナガコナダニ、ハスモンヨトウなどの病害虫が多発生し、著しい商品価値の低下や大きな減収を招くことがあります。

ハウレンソウべと病には抵抗性品種が導入されていますが、新レースが出現すると発病することがありますので、発病に適した比較的低温で多湿な条件が続くような場合は、薬剤防除も組み入れることが必要になります。

アブラムシ類は、秋季が比較的温暖に経過した場合に、侵入や寄生が多くなります。新芽や芯葉に寄生すると、展開葉の奇形や萎縮をおこし、また、吸汁被害部にすす病が発生して葉表面が黒く汚れるなど、商品価値を失くしてしまいます。さらに、アブラムシ類は、ハウレンソウえそ萎縮病やモザイク病などのウイルスを媒介します。これらは発病すると著しく商品価値を低下させますので、発生には十分な注意が必要となります。アザミウマ類も芯葉に寄生すると、新芽が萎縮して奇形となり、商品価値を低下させます。

ハウレンソウケナガコナダニなどコナダニ類が新芽や芯葉部分に寄生すると、加害部に小さな穴があき、生育とともに展開葉がコブ状の小突起を生じて光沢を帯びた萎縮や奇形となって、著しく商品価値を低下させます。また、ハスモンヨトウなどチョウ目害虫も多発生すると、食害で著しい被害となります。

このため、これら病害虫の発生には常に十分注意し、早期発見と予防や早期の薬剤防除に心がけてください。

【防除のポイント】

- べと病は、比較的低温（8～18℃）で多湿な条件が続くと発生しやすくなるため、このような天候の時には予防散布を心がけてください。なお、厚播きや軟弱徒長、排水不良の圃場は、発生を助長しますので、特に注意が必要です。
- アブラムシ類は、施設やトンネルの開口部を防虫ネットで被覆すると有効です。また、黄色粘着シートを設置して誘殺したり、薬剤散布適期の参考にします。さらに、ハウス内や周辺の雑草は、アブラムシ類の飛来源、ウイルスの保毒源となる可能性があるため適切に除草し、常に圃場衛生に努めましょう。
- コナダニ類は、前作の被害残渣や施用した未分解有機物などが発生源となるため、これらの処理を適切に行うことが重要です。なお、本葉 2～4 葉期頃の加害により奇形を生じますので、発生を認めたら早めに防除を行いましょう。
- 薬剤防除に際しては、下記を参考に行ってください。なお、耐性菌や抵抗性害虫の出現を回避するため、同系統薬剤の連続散布を避けて、ローテーション防除に努めましょう。

表 1 ハウレンソウ ベと病の主な防除薬剤（平成 26 年 9 月 11 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
アリエッティ水和剤	1,500 倍	収穫前日まで / 2 回以内
ランマンフロアブル	2,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
レーバスフロアブル	2,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内

表 2 ハウレンソウ 主要害虫の主な防除薬剤（平成 26 年 9 月 11 日現在）

薬剤名	アブラムシ類	アザミウマ類	ハウレンソウケナガコナダニ	ハスモンヨトウ	希釈倍率または施用量	使用時期 / 使用回数
スタークル粒剤※	○				6 kg / 10 a 播溝土壌混和	播種時 / 1 回
オンコル粒剤 5	○				3 kg / 10 a 播溝土壌混和	播種時 / 1 回
アドマイヤーフロアブル※	○	○ネギ			4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
アクタラ顆粒水溶剤※	○				2,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
スミチオン乳剤	○				1,000～2,000 倍	収穫 21 日前まで / 2 回以内
アグロスリン乳剤	○		○		2,000 倍	収穫 21 日前まで / 5 回以内
スピノエース顆粒水和剤		○ネギ			1,000 倍	
アファーム乳剤		○			5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
アファーム乳剤			○	○	2,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
カスケード乳剤			○	○	4,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
パダン SG 水溶剤		○ネギ			1,500 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内

注) 1 ※印の薬剤はネオニコチノイド系です。連続使用は、避けてください。

2 対象害虫の ○ミナミはミナミキイロアザミウマ、○ネギはネギアザミウマでの農薬登録です。

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040